

#### 4 教科に関する特徴的な調査問題

##### (1) 小学校国語

「言葉の使い方」に関する資料を目的に応じて読み取り、年代ごとの割合から分かることを的確に書くことができるかが問われています。(国語A「知識」)

#### <調査問題 国語A>

ア   
イ   
ウ

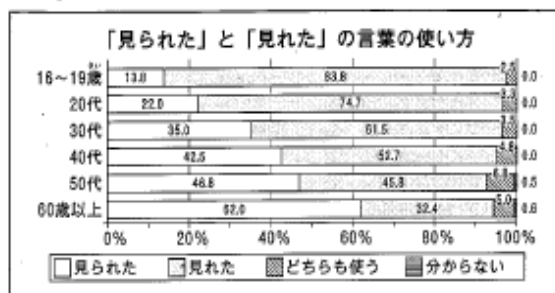
16さいから60さい以上までの「見られた」と「見れた」のわり合のちがいをまとめると、


※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
※●の印から書きましょう。どちらで行を変えないで、続けて書きましょう。  
※数字は、20 のように1ますに書きましょう。

【資料】  
「見られた」と「見れた」の言葉の使い方  
16～19歳 13.0 83.8 2.0 2.0  
20代 22.0 74.0 2.0 2.0  
30代 35.0 61.5 4.0 4.0  
40代 42.5 42.7 4.6 4.0  
50代 46.6 45.8 6.1 4.0  
60歳以上 52.8 32.4 8.0 4.0

【ノートの一部】  
「見られた」と「見れた」の2つの言葉を用いて、四十文字以上、五十文字以内で書きましょう。  
（書き出しの言葉は、字数にはふくみません。）  
ア  
イ  
ウ  
ウ

【資料】



(文化庁「平成22年度国語に関する世論調査」による。)

【ノートの一部】

（年代ごとのわり合から分かること）

- 16さいから19さいまでのわり合では、「見れた」が「見られた」を大きく **ア**。
- 20代、30代でのわり合においても、16さいから19さいまでのわり合と同じようであることが分かる。
- 50代でのわり合は、「見られた」と「見れた」の差が1ポイントで、ほぼ同じである。
- 60さい以上でのわり合を比べると、「見られた」が「見れた」を **イ**。

（全体から分かること）

16さいから60さい以上までの「見られた」と「見れた」のわり合のちがいをまとめると、

ウ

～（内容が続く）～

4 高木さんは、言葉の使い方について考えるために、次の【資料】から分かったことをノートにまとめた。【ノートの一部】を読んで、あとの問いに答えましょう。

	平均正答率	無答率
京都府	48.1%	16.7%
全国	44.9%	20.3%

☆「見られた」「見れた」の2つの言葉の使い方を比較しているグラフであることを理解した上で、凡例を基にしながら各年代の割合を的確にとらせることが求められている問題です。  
☆グラフなどの資料を正確に読み、分かったことを書くことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習において指導することが大切です。

(2) 小学校算数

示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として2つの三角形の面積が等しいことを記述できるかどうかをみる問題（算数B「活用」）です。量と測定の領域で身に付けた知識・技能を活用する力が問われています。

<調査問題 算数B>

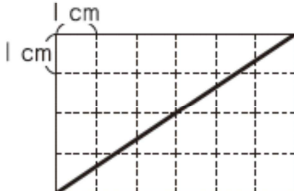
3

長方形の面積を4等分する分け方を考えました。

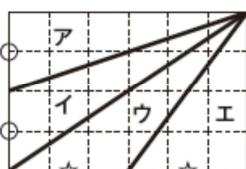
(2) たかしさんは、下のような分け方を考えました。

たかしさんの分け方

① 長方形に対角線をひき、2つの直角三角形に分ける。



② 一つの頂点から、縦と横の辺のそれぞれの真ん中を通るように線をひき、4つの三角形に分ける。





たかし

三角形ア、イ、ウ、エは、もとの長方形の面積の半分の半分になっているのかな。

たかしさんの分け方を見て、なおみさんが次のように言いました。

三角形ウとエは、☆の部分を感じとると、どちらも底辺が3 cm、高さが4 cmです。  
だから、三角形ウとエの面積は等しくなります。



なおみ

たかしさんは、なおみさんの説明を聞いて、三角形アとイの面積も等しくなることに気がつきました。

三角形アとイの面積が等しいことを、言葉と数を使って書きましょう。

☆示された分割の仕方を解釈し、面積が等しくなることを、例示された説明を理解して言葉と数を用いて記述することができるかどうかを見る問題です。  
☆京都府の正答率は全国平均を3.4ポイント上回っています。また、無答率も全国平均に比べるとよいですが、全体的に高い値を示しています。  
☆問題を解決するときには、言葉や数、図、表などを用いて、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを伝え合ったりする活動を充実することが大切です。

	平均正答率	無答率
京都府	46.2%	12.5%
全国	42.7%	15.6%

(3) 中学校国語

文学的な文章を読んで、「表現の仕方に注意して読み、その効果を考えること」「文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」ができるかが問われています。(国語B「活用」)

<調査問題 国語B>

50

100

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

- 二 この文章では、――線部①「たしかに便利だ。こんなものができるとは、むかしの人は考えもしなかったろう。」と同じような表現が繰り返されますが、――線部②では「なにが便利だ、こんなことになろうとは、むかしの人は考えもしなかったろう」になっています。これらの表現の効果を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 現実のことではなく架空の話であることを明確にする。
- 2 これまでに描かれた全ての場面の出来事を正確に思い起こさせる。
- 3 最初に提示された疑問に対する答えを最後に明らかにする。
- 4 ものの見方や考え方が結末で大きく変わることが印象付ける。
- 三 この文章を読んで、あなたが感じたことや考えたことを、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。  
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。
- 条件1 本文を引用して書くこと。引用する部分は、かきかっこ「」でくくること。
- 条件2 この文章について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。
- 条件3 八十文字以上、百字以内で書くこと。

問2の2

	平均正答率	無答率
京都府	76.0%	0.4%
全 国	75.6%	0.5%

問2の3

	平均正答率	無答率
京都府	68.0%	9.4%
全 国	65.7%	11.3%

☆ 星新一の「装置の時代」を取り上げ、作品全編を読んだ上で感想を書くことをもとめた問題です。

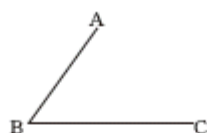
☆ 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことを各教科等の学習において指導することが大切です。

(4) 中学校数学

作図の手順を読み、根拠として用いられる平行四辺形になるための条件を理解しているかどうかをみる問題(数学A「知識」)です。作図できるだけでなく、平行四辺形になることの根拠を理解しているかが問われています。

<調査問題 数学A>

(3) 下の図のように、点A、B、Cがあり、点Aと点B、点Bと点Cを結びます。



下の①、②、③の手順で点Dをとり、平行四辺形ABCDをかきます。

① 点Aを中心として、BCを半径とする円をかく。

② 点Cを中心として、ABを半径とする円をかく。

③ 交点をDとし、点Aと点D、点Cと点Dを結ぶ。

	平均正答率	無答率
京都府	48.3%	0.9%
全国	47.7%	1.1%

☆作図の方法を覚えるだけでなく、一つ一つの操作の数学的意味を理解することが大切です。  
 ☆この設問では、コンパスは等しい長さを移すことから、根拠となる平行四辺形になるための条件を見いだすことが必要です。  
 ☆作図の際には、作図ができるだけでなく、その作図ができる根拠について説明させるなど適切に指導することが大切です。

前ページの①、②、③の手順では、どのようなことがらを根拠にして平行四辺形ABCDをかいていますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行な四角形は、平行四辺形である。
- イ 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
- ウ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
- エ 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しい四角形は、平行四辺形である。
- オ 対角線がそれぞれの中点で交わる四角形は、平行四辺形である。